

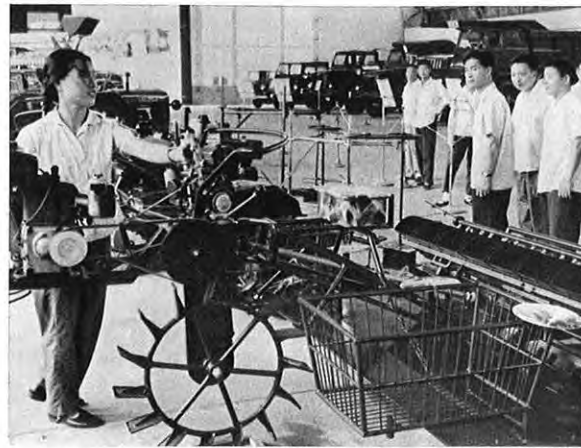
この対談は、先に訪中した沢田知事と熊日南記者による八月十一日放映のRKK県政番組「県民のひろば」から再録したものです。

南一熊本県が初めて正式に中国に代表団を送りました。熊本県日中友好交流促進代表団という名前で、沢田団長以下五名が七月の二十日からおよそ二週間、北京、上海、広州などを回りました。本日は、中国の印象あるいはその中国と熊本との今後のかかわり合いがどうなっているかという事を沢田知事にお尋ねしたいと思えます。簡単に中国の印象といったものを、お話し頂きたいと思えます。

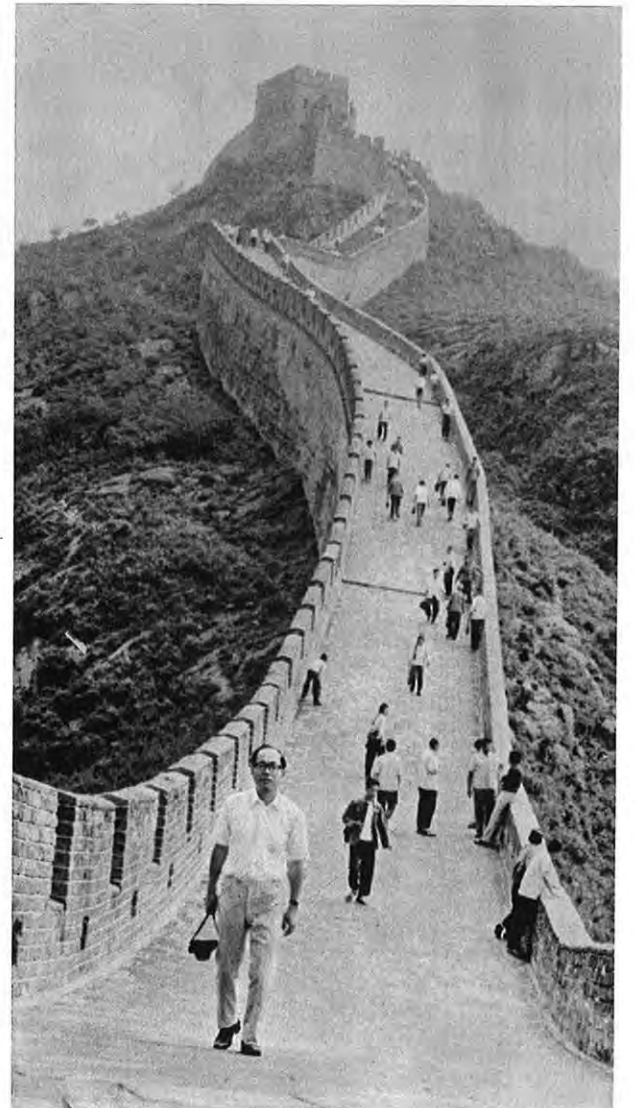
知事―私は、とにかく中国に初めて参ったわけで、短期間に、しかも非常に暑いさ中でしたが、中国の大きさや八億近い人口など、もちろんまだまだ人々の生活程度あるいは農業や工業の技術の面では、我が国に比べると遙かに低い水準にあることはまぎれもない事実です。しかし、今ただちに二つの国のそういった水準を単純に比較することは出来ないのではなにかと、いずれにしても、若い人々を中心として全部の人々が一致結束して新しい国を作ろう、新しい中国を建設しよう、新しい社会を作ろうという意欲、これには深く心を打たれたわけです。そこまで多くの人々を組織化し、引っ張っていったお毛首席を始め中国の



▲人民大会堂での鄧小平副総理との会見



▲上海市工業博覧会での農機具展示場



▲万里の長城にて……沢田知事



▼北京市の朝・マイカー族は自転車

※この頁の写真は熊日提供です。

要人の人々の指導力というものは、これは偉大なものであると、また、この様な調子で成長していけば、将来非常に大國に発展するのではなかるうかと、そういう印象を受けて帰って参りました。

南一さて、熊本県と中国とのかかわり合いの問題が今回の中国訪問でいろんな要人との協議の中で出て参りましたが、特に熊本と中国との間のチャーター便あるいは将来の定期航空路の問題、青年の船を派遣するという問題、それと北京大学と熊本商科大学との間の教授交換の問題、あるいは来民開拓団の募参の問題など幾つかの問題があったわけですが、その

対談

沢田知事・中国を訪ねる

の辺がどうなっておったのか、また、今後の熊本県としての取り組む課題、あるいはテンポそういったところについて知事のお話を承りたい。

知事―何から話していいかわかりませんが、その全体として、私が今回北京を訪問して特に感じたことは、日中両国は長い間の歴史的な友好関係にある二つの国である。一時期不幸な期間があったが、これは非常に短い期間で、しかも、一般大衆と申しますか、国民の直接知り知らぬことであって、何ら責任はないんだと、そういった過去のいろいろな問題も現在においてはすべて解決したんで、未

来永却にわたって両国はひとつ友好関係を保ち、手をつないでやっていこうということ、強く機会あるごとに強調されたということ、それとも一つは、文字通り日中両国は一衣帯水の間にあるという、特に九州熊本はそういう立場にあるということをよく理解してくれたということ、そこで熊本空港を是非ひとつ近い将来利用して、中国への定期航空路の一端としたいということ、その前提として出来ればチャーター機を熊本―上海間に飛ばせたいということを入れました。

中国側も基本的には賛成をしてくれました。むしろ、日本国内の問題ではないかと。従って、いろいろな国内的な諸条件をよく詰めたというふうなことで、これはひとつ早速具体化するようになり、これから私共働きかけをしなければならんと思っています。

南一青年の船の方はどうですか。

知事―これも私は、北京で鄧小平副総理以下皆さん方に要望しまして中国側としても今年下半年から正式に受入を始めたいという意向がはっきりしたわけですから、それから北京大学から先生をお招きしたいということ、これも十分好意的に検討したいというお話でした。また現在の東北地方(昔の満州)で亡くなられた

した、例えば、来民の開拓団の募参といったようなことにつきましても、これは今までそういう例は両国間にはないわけなんです、北京の紅十字会本部に参りまして十分要請を致しました結果、これも好意的に早速関係方面と協議して検討してみようというお話があって、非常に有難く思っておるわけです。

短期間の訪中でしたが、政府機関あるいは受入側の各種団体はもとより、中国の一般大衆、ことに小学生や幼稚園児に至るまで心から我々を歓迎してくれたという事は非常に印象深いですね。

今度の熊本県の代表団というのは、私は非常にユニークだったと思えます。と申しますのは、各界の組織を代表する様なかっこうで単一の組織ではなかった。いうなれば昨年来民の内に盛上って参りました両国の友好増進という機運を代表するかっこうで、いうなれば熊本方式ともいへば事情を背景にして私共が北京へ行ったわけなんです、そういう意味で私はある程度成果を上げ得たという風に考えています。

南一なんか熊本の方から近い将来経済訪中団を出そうかという計画もありますか。

知事―ただ今回のように五人という代表団が一回中国を訪問したということでは私はいけないと、やはりもっともっと多くの人達が、場合によっては民間ベースでも交流を深めていくということが必要であろうと思えます。